

平成21年度「専修学校を活用した就業能力向上支援事業」成果報告書

コース名	女性対象コース		
事業名	子育て～新たなチャレンジ支援事業		
法人名	学校法人 松本学園		
学校名	日本総合教育専門学校		
代表者	理事長 松本 秀藏	担当者 連絡先	総務主任 畠本 靖子 0968-72-2375

1. 事業の目的

子育てや介護等により一時的に離職している女性にとって、就業のブランクによる職務遂行能力の低下や、仕事と家庭の両立等のさまざまな問題は、積極的な求職活動にブレーキをかけるばかりでなく、自分自身の人生設計にも不安を抱く結果となり、能力アップのための自己投資をすることへの一歩を踏み出す機会まで失っている。

個々の人生において、これからの社会変化において、「仕事」は生活を支えると同時に人生そのものを支える重要なものであるという視点に立ち、平成19年度から取り組んできた、女性の再チャレンジ支援事業(平成19年度・平成20年度文部科学省・専修学校を活用した再チャレンジ事業受託による実施)で培ったノウハウを活かし自分自身を知ることから始まる「キャリア・カウンセリング」を主体とした、個々のキャリアデザイン～プランニングするための支援のために「キャリアアップ講座」と、併せて時代が求める基礎能力向上のために「ITスキル習得」のための講座を併せて実施。さらにインターンシップを組み込んでのカリキュラムを編成することで、より実践的な体得による理解を深め、自己のスキルの確認と、受講後の実践を支援することを目的として事業を実施した。

2. 事業の実施に関する項目

①カリキュラムの概要（目的・科目数・内容・期間）

①キャリアアップ講座

職業の選択に関する支援をプログラム化し、CDA(キャリア・デベロップメント・アドバイザー)によるキャリアデザイン～プランニングの支援を実施。
(ねらい) 就業への意識改革から確実な就業へのステップアップ

〔目的達成のカリキュラム基本〕

- a. 自分のこれまでの制限を外して本当にやりたいことを発掘する。
- b. 経験・成功体験の棚卸し～自分への自信を取り戻す。
- c. 自分を客観的に知る。
- d. これまでの人生を肯定的に受け入れ、今後大切にしていきたい価値観を見いだす。
- e. 自分らしい生き方を見いだし、描いたビジョンに向けて行動をスタートさせる。
- f. 再就職に向けた準備・ビジネススキル

〔実施カリキュラム〕

第1期 9/1～11/末		第2期 12/1～3/初旬	
① アイスブレイク・キャリア理論・ジョブカード		① アイスブレイク・講座目的・カリキュラム説明	
② 職業の種類・マナー・職業講話		② 働く女性のメンタルヘルス・職業講話	

③自己発見・CPS-J検査	③自己発見1・自己分析・価値観を探る
④成功体験ワーク・能力の棚卸し・ジョブカード	④自己発見2・能力の棚卸し・成功体験
⑤自己概念・自己一致・価値観・ライフライン	⑤基礎能力・コミュニケーション能力・ビジネスマナー
⑥キャリアデザイン・CPS-J説明・テーマ作成	⑥ビジネスマナーフォローアップ・履歴書・職務経歴書
⑦個別キャリア・カウンセリング	⑦個別キャリア・カウンセリング
⑧個別キャリア・カウンセリング	⑧個別キャリア・カウンセリング
⑨職業人意識・応募書類・アサーティブ	⑨文章力・自己アピール・ジョブカード・職業講話
⑩タイムマネジメントと計画・面接の心得	⑩タイムマネジメントの考え方と行動計画
⑪応援メッセージ・感想と意見交換	⑪就労への意識向上・カラーコミュニケーション
インターンシップを2日実施	インターンシップを2日実施

②ITスキル習得講座

(ねらい) ITスキルの基礎として、Word文書処理技能検定3級・Excel表計算技能処理検定3級合格を目指して基本を身につける。

[実施カリキュラム] 第1期・第2期共通 22回／期実施

Word		Excel	
①基本操作・ビジネス文書作成		①基本操作・表計算・書式設定	
②表計算		②数式・関数	
③図形の利用・地図作成		③表計算・印刷設定	
④実技問題演習		④グラフ作成	
⑤筆記問題演習		⑤実技問題演習	
⑥模擬試験		⑥模擬試験	
⑦検定試験		⑦検定試験	

インターンシップ2日実施

②受講者の募集方法（手法・期間・効果）

受講者募集に当たっては、下記の方法を用いて行った。

1. 市町村「広報誌」への掲載(玉名市・長洲町・荒尾市・和水町・玉東町)
2. 行政機関へのポスター・チラシ設置
3. 近隣スーパー等へのポスター・チラシ設置

これまで3年間、女性の再チャレンジ支援を行い、120名という多くの方々への支援実施展開により多くの方々へ講座の認知度が広まり、いずれも定員を上回る応募があり、選考の上20名ずつを決定した。

(選考にもれた方々からは、次年度実施時の予約要望がある状況であった。)

実施は、第1期・第2期と分け、1期3ヶ月間・1期定員20名で実施。

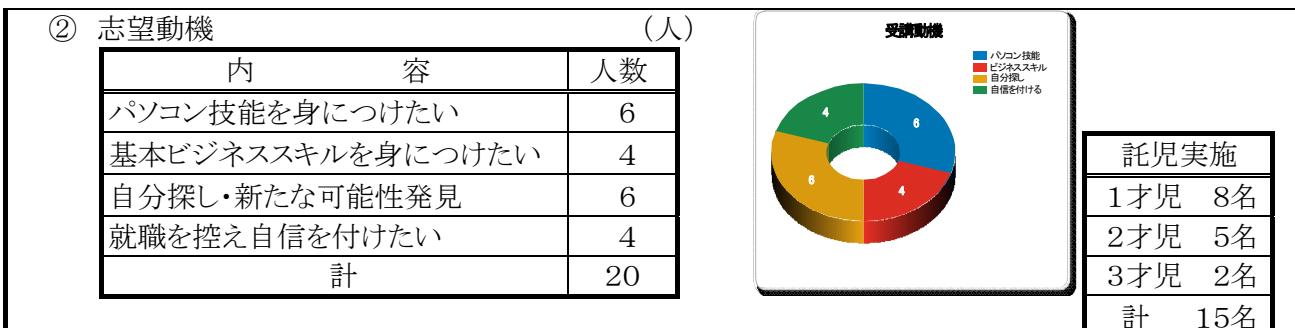
③受講者の状況

受講生の属性

①年齢 (人)

	第1期		第2期		計	
	20代	6	30%	4	20%	10
30代	12	60%	10	50%	22	55%
40代	2	10%	5	25%	7	18%
50代	0	-	1	5%	1	2%
計	20	100%	20	100%	40	100%





④受講者の意識調査等

受講生の満足度

講座の実施回数や時間帯等の基本事項については、ちょうどいいと答えた人が最も多く、全体の75%を締め、少ないと応えた人が25%もいた。また内容についての満足度も、94.5%の人が満足していると答えられた。この数字が示すとおり、大変満足されたプログラムであった。

具体的な声としては、

- 無料でこのような経験ができ主婦にとって本当にありがたい。インターンシップやカウンセリングで考え方の幅が広がった。
 - 再就職へのステップをバックアップされ、有意義な3ヶ月を過ごすことができた。託児もありがたかった。
 - 子どもを預けるところがなく、なかなか勉強に行けなかつたが、実現して良い機会となつた。
 - 自分の過去や将来のこと、長所・短所・価値観等、自分自身のことを立ち止まって考えることができた。
 - 自分を知る良い経験ができた。前向きに考え、何事にもチャレンジする勇気が持てた。
 - これからもこうした講座が据え永く続くことを期待する。
 - 人生観が変わった。いろいろなことに気づかされた。
 - カリキュラムがバランスよく組まれており、安心して受講できた。
 - 世代の違う女性20名で一緒に学習できたことが自分自身の勉強になった。
- など、多く方から受講によって自分自身の気づきが得られたという報告があった。

⑤受講後の状況 (修了者数・就職率)

就職支援体制

①ジョブ・カードの活用

ジョブ・カードの作成については、教育プログラムの中で実技と併せて実施したが、本来のねらいは、本人の自覚による気づきと意識の高揚にある。自己ピーアールを考える中で、自分自身の気づきやアピールするための考え方の整理が有効であり、結果として生きた履歴書や職務経歴書が作られ、意識付けによる面接等の対応ができるようになった。

そのことが、実際の面接の場面で活かされ、授業としての面接演習効果と併せて真に自己表現できる自信によって、適切な対応が図られたと考える。

②地域若者サポートステーションとの連携

当法人(学校法人松本学園)は、厚生労働省からの委託により「たまな若者サポートステーション」を運営している。

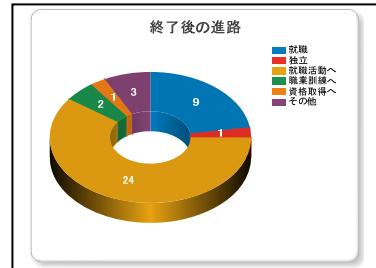
女性コースを実施した専門学校とは、隣接する場所にあり、また、講師であるキャリア・カウンセラーは、たまな若者サポートステーションの専属カウンセラーでもあることから、講座外の時間で気軽にサポートステーションを訪れ、キャリア・カウンセリングや相談を行ってきた。

講座終了後も、サポートステーションに登録し、継続して訪問されており、今後も再就職へ向けての支援を行っていく。

この連携体制は、他ではなく、学校法人による専門学校の職業教育機能とサポートステーションの就業支援を組み合わせた取り組みは、これからさらに充実させていきたい。

就職の状況

	第1期	第2期	計	割合
就職	3	6	9	22.5%
独立	1	0	1	2.5%
就職活動へ	13	11	24	60.0%
職業訓練へ	2	0	2	5.0%
資格取得へ	1	0	1	2.5%
その他	0	3	3	7.5%



3. 事業の評価に関する項目

①当初目的の達成状況

講座の実施回数や時間帯等の基本事項については、ちょうどいいと答えた人が最も多く、全体の75%を締め、少ないと応えた人が25%もいた。また内容についての満足度も、94.5%の人が満足していると答えられた。

この数字が示すとおり、大変満足されたプログラムであり、全体の90%以上の受講生が再就職の進路を見いだし、専門知識の習得へと行動を開始した受講生が3名、講座就職者数は10名となり、より実践的な体得による理解を深め、自己のスキルの確認と、受講後の実践を支援することを目的として事業を実施した。

②事業の成果及び改善点

教育プログラムの充実と連携機能の構築

平成19年度～平成20年度まで2年間、女性の再チャレンジ支援事業に取り組み、今年度で3年目の事業となつたが、募集から短期間で定員以上の申込みがあり、地域の期待の大きさが伺えると同時に、実施した講座内容について非常に高い評価を受け、受講生からの口コミで広がつたことについて、3年間で培つた教育プログラムは今後の新たな支援事業の礎となるものと考える。

就職支援体制のところでも述べたとおり、たまな若者サポートステーションとの連携が、講座終了後も継続した支援につながり大きな特徴と効果を生み出している。若者サポートステーションは、一法人としての取り組みではなく、市・県といった行政との連携、さらに学校・企業・NPO等とのネットワークによって展開される事業であり、そのネットワークが今後のフォローアップにも大きな力となって発展することが可能であると確信している。

③次年度以降における課題・展開

これまで3年間実施してきた女性の再チャレンジ支援事業は、専用パソコン教室による実習、及び学校の教室を有効に活用をした、専門学校の職業教育機能を最大限に生かしたものである。また、託児の実施、さらに通学の利便性や地域の特性を考慮して実施したものであり、多くの成功要件を備えた上での実施であった。

残念ながら、平成21年度をもって終了となるが、こうした機会がなくなることで、地域の人々に学ぶ機会がなくなることがないよう、最大限努力し、たまな若者サポートステーションの活用と併せて、専修学校としての取り組みも継続して研究し、実践へと結びつけていきたい。

④成果の普及

これまで3年間、女性の再チャレンジ支援を行い、120名という多くの方々への支援ができたことに感謝すると共に、今後は、この実績を充分に精査し、さらなる支援策に活かしていきたい。

(1)認知度の広まりから

対象となる女性の支援策として、実施展開により多くの方々へ講座の認知度が広まり、期待も高くなる一方である。特に、当学園では、専門学校の他に66年の実績を誇る幼稚園があり、その保護者を中心とした要望が高い。今年度においても、平成22年度も実施されるものとしての期待も大きかったが、残念ながら実施されないことが決定し、要望される方々への対応も考えていかねばならないと考えている。

(2)蓄積したノウハウの活用

当校では、文部科学省委託事業のほか、厚生労働省施策である緊急人材育成支援事業においてまず始めに「職業横断的スキル習得訓練コース」として、ビジネスキャリア経理科を平成21年11月から2月にかけて実施した。

同時に、独立行政法人雇用・能力開発機構・荒尾職業能力開発促進センターにおける「橋渡し訓練」のキャリア・ガイダンス部分を担当し、①ビジネススキルアップ科②機械加工技術科③テクリカルメタルワーク科の3科を10月から2月にかけて実施し、その中でこれまでに培った女性の再チャレンジ支援プログラムが大変役に立った。

平成22年度においても、4月から、緊急人材育成支援事業である「社会的事業者等訓練コース」の実施を準備しており、蓄積したノウハウを土台として、さらに実践の中で充実させていきたい。

(3)たまな若者サポートステーションでの支援

若者サポートステーションは、おおむね40才までの無業者の方々を支援するところであり、女性コース受講生も終了後は、フォローアップを継続していくと同時に、(1)で述べた平成22年度以降の要望ある女性に対しても、若者サポートステーション事業の中でも、講座の実施やキャリア・カウンセリング、さらにジョブ・カードの作成等の支援を行っていく。

(4)構築したネットワークとの連携の継続と拡大による普及

講座の実施にあたり構築した就業支援のネットワークを今後もさらに充実させ、女性をはじめとした無業者の支援を行う。

インターンシップや職業情報の提供他、さまざまな機関の特徴ある施策と連動させ、培ったプログラムを改良、充実させ普及していきたい。